

部 長 長縄 伸一
研究主任 佐々木大揮
部員数 50名

1 研究主題

興味をもって、説明文を読み解く力の育成
～書く能力の向上を目指して～

2 はじめに

近年、論理的思考力や問題解決能力の重要性が話題になっている。国語教育において主にそのような能力の育成を担っているのは、説明文の授業であると考えられる。

これまでは、「興味を持って、説明文を読み解く力の育成～教師も子どもも分かりやすい授業を目指して～」という研究主題を設定し、内容把握や文章構成を理解させるために分かりやすく学習させる方法を探求してきた。それを受けて、前年度と今年度は次の段階として、「興味を持って、説明文を読み解く力の育成～書く能力の向上を目指して～」という「書く」ことにフォーカスした研究主題設定をし、その能力を伸ばすための学習課題や方法を探求してきた。

3 研究経過

- (1) 会を定期的に設け、学年ごとに分かれて授業の教材研究や実践報告をした。
- (2) サークル部長が各学年の実践をまとめ、研究成果を共有した。
- (3) 報告会を行い、次年度のテーマについて話し合った。

4 研究の概要

4月	各学年に分かれて、研究計画立て
5月	各学年に分かれて、教材研究および質疑応答
6月	各学年に分かれて、教材研究・実践報告および質疑応答
9月	各学年に分かれて、教材研究・実践報告および質疑応答
10月	発表会リハーサル 愛日支部国語部会研究集会発表

月ごとの研究テーマは表の通りである。各学年に分かれてテーマに沿った教材研究を行い、それぞれが創意工夫を凝らした授業実践の報告を行った。会では、互いの実践資料を持ち寄り、熱心に話し合う様子が多く見られた。そこで、話し合った内容をグループごとに用紙にまとめてもらい、それらを集約したものを次の研究会で配付することで、すべての先生が他学年の行った教材研究や実践報告を知ることができた。

9月には研究題目「興味を持って、説明文を読み解く力の育成～書く能力の向上を目指して～」を追究した2年間の研究成果を書面にまとめた。10月には、愛日支部国語部会研究集会発表に向けて研究成果発表のリハーサルを行い、改善点などについて話し合った。愛日支部国語部会研究集会では各地区

の実践報告を聴き学んだ。発表者は、小牧市のこれまでの取り組みの成果を簡潔に伝えた。今後は発表会で学んだことや毎月の実践報告を元に、3学期の説明文の授業を考え、さらに研究を進めていく予定である。

① 国際

「はじめ・なか・おわり」にわけ、「はじめ」と「おわり」に筆者の主張があることに気づかせた。文をつなぐ指示語を意識させ、大切な文に線を引くことに取り組ませ、筆者の事例についての自身の考えをもたせた。

② 小学校1・2年

子どもたちに疑問をもたせたうえで読み進めることを大切にして「問いと答え」の型の習得を目指した。ペアで一冊の教科書を共有して音読させるなど、他者との関わりを通して、自分の考えを深めさせた。

③ 小学校3・4年

段落の並び替えを通して、論理の流れを考えさせた。その中で、接続詞に着目させたり、事例と筆者の考えを区別させたりした。読み深める際は、グループでの作業を効果的に入れ、主体性をもたせようとした。

④ 小学校5・6年

要旨をまとめる方法を考えさせた。まず、意味段落ごとに内容を短い言葉にまとめさせた。そして、はじめとおわりにある筆者の主張や、繰り返し使われているキーワードに着目させ、形を整えさせた。

⑤ 中学校1・2・3年

構成を把握し、その型を活用できることを目指した。段落の並び替えなどを通して、序論・本論・結論の構成や筆者の工夫を捉えさせた。その経験を生かして、具体例や図表の提示などの工夫を用いて、自分なりの文章を書かせた。

5 今後の課題

「深い学びの追求」と「読み解く力の向上と書く力の向上につなげること」はまだ発展途上である。今後は、より一層の主体的・対話的な学びを軸にした説明文授業の充実を図り、生徒の論理を読み解く力を高めていきたい。また、そこで培った知識や能力を「書く」という形でアウトプットできるようにしていきたい。

小学校1年生から中学校3年生までの教師が集まって研究を行える機会は少ない。それぞれの学年の発達段階に応じた指導方法を学び、9年間のつながりを考えて授業実践していくために、今後も教材研究や実践報告を重ねていきたい。